



牟田 泰三
(広島大学元学長、物理学者)

孫娘のアヤが3歳1カ月のころ、海水浴に行つて干潟のヤドカリや小さなカニを捕まえて遊びました。バケツを見るともう小さなカニやヤドカリが10数匹も入っています。そろそろ帰るかなと

こころのめばえ②

いう時になつて、このカニやヤドカリをどうしたものか、困つてしまいました。彼ら海辺に放つとなると、アヤのいつもの行動パターンから考へて、大泣きしてじだんだを踏んで持つて帰ると主張するに違いありません。

な穴がたぐきんあつたよね。あれはカニさんのおうちなんだよ。ひよとすると、このカニさんのおうちもあの穴だったかも知れないね。きつとカニさんのパパやママがおうちで待つているのかも知れないよ。カニさん、おう

ジイジがジュースを飲んでいると、突然、「ジイジ、カニさん返しに行こう」と言い出しました。「えっ、ジイジの話を聞いてたの。分かった。二人であの砂浜に行つてカニさんたちを返そうね」。アヤとジイジはバケツを持つて手をつ

捕まえたカニを海に返した時の孫娘の心

海辺に放つ交渉がアヤとの間で成り立つとはとても思えないけれど、駄目でもともと、とアヤとお話しを始めました。「アヤ、カニさんとかヤドカリさんとかたぐきん捕まえたね。面白かつたね。砂浜(干潟)には小さ

ちに戻してあげようか」。ジイジの話を聞いているのか聞いてないのか、アヤは黙つて砂遊びを続けています。はあ、やっぱりジイジの話は通じてないな、まあ仕方ないかと思つていました。それから5分ほどたつて、

ないで干潟に向かいます。干潟でバケツをひっくり返すと、這い出したカニやヤドカリたちはごそごそと散らばつていきました。「カニさんバイバイ、ヤドカリさんバイバイ」。

ジイジの話を聞いて、幼児の頭でいろいろと想像をめぐらしてみたら、カニさんたちがかわいそうになつてきて、おうちに返してあげたくなつたと推測できそうです。3歳になつたばかりの幼児でも、他者の気持ちを理解して同情することができていることを示しているのではないのでしょうか。

カニさんたちをおうちに返してあげた後のアヤの晴れ晴れとした笑顔がそれを証明しているように思われ

てなりません。

広島大学マスターズは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。
【問い合わせ】
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)